

トレーラ部会

90%を超える業界カバー率で
さまざまな特殊架装も手掛ける

1. 部会概要

名前のとおり、各種のトレーラを製造している会員の集まりであり、当初は特装部会の一部としてトレーラの連結装置関係部品規格化やトレーラとトラクタとの連結検討などの活動を行ってきた。しかし高速道路網の発達に伴ない、トレーラ台数が急速に増加傾向となったため、1969年に分離独立しトレーラ部会として発足した。

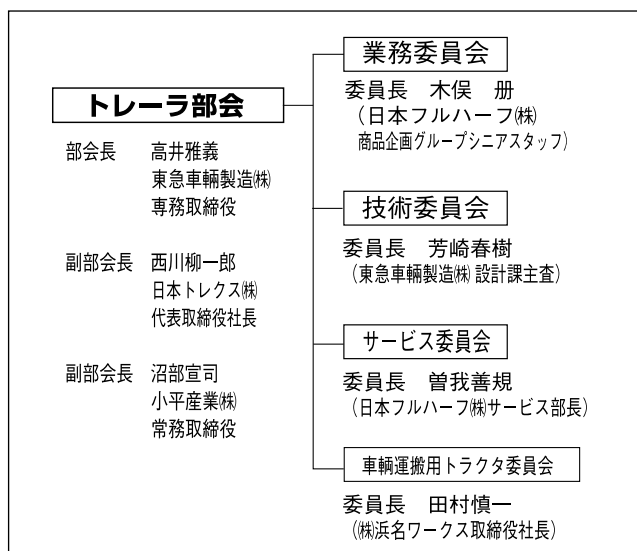
現在は13社と会員数は少ないが、業界カバー率は90%以上を占め、まとまりのいい部会といえる。

主要製品は、低床、平床、パン、コンテナ、タンク、ダンプ、ボール、車載トレーラであるが、他にイベント展示車、空港医療車、コンクリート桁運搬車、風力発電装置運搬車、ロケット運搬車などお客様のニーズに応じ、さまざまな特殊架装のトレーラも多く手掛けている。

また、トレーラは物流の大きな柱でもあり、全日本トラック協会、日本自動車輸送技術協会、日本自動車工業会、自動車技術会など関係団体との交流も緊密にとって活動している。

2. 組織

4つの委員会を設置し、2007年度は次のとおりの役員で活動している



3. 活動内容

トレーラは、トラクタにより牽引されて動くが、フレーム、アクスル、ホイール等のシャシ部も備えていること、および貨物自動車として認証(新型自動車)を受ける必要があるため、架装という見方だけでなく自動車という観点からの広い活動が必要になっている。

具体的には道路運送車両法をはじめ関連する保安基準、審査基準などの法規対応やお客様での保守点検啓発活動などが重要になっている。

最近の主な活動例としては、

- (1) 法規変更や車両安全性向上への対応
- (2) 安全な運行への販売店やお客様への啓発活動
 - ・ホイール・ナットの締付け規定トルク値の検討結果をとりまとめ情報としてユーザーに提供
 - ・海上コンテナトレーラの横転事故抑止に対する検討結果をとりまとめユーザーに情報提供
 - ・自動車点検基準改正による点検整備方式の検討と対応
 - ・トレーラ定期点検分解整備記録簿の改訂
 - ・安全運行のためのトレーラサービスニュースの発行とPR等
- (3) 車輛運搬車のトレーラ側とトラクタ側との組み合わせ適合確認のための自主審査の実施
- (4) トレーラに関する関係団体との調整や各種規制緩和要望

最近の発行物

- 1) 大型トレーラ
「車輪脱落防止のための正しい取扱いについて」
- 2) トレーラサービスニュース 4
改訂版「ブレーキドラムの点検について」
- 3) トレーラサービスニュース 24
「被牽引自動車点検・分解整備記録簿の使用について」
- 4) トレーラサービスニュース 25
「スプリングブレーキチャンバの点検・保守について」

トレーラ部会

高井 雅義 部会長に聞く

(東急車輛製造(株) 専務取締役)

環境負荷抑制の推進と 利便性の高い製品で お客様にアピールを

最近のトレーラを取り巻く環境について教えてください。

2003年に規制緩和されたバラ積み緩和トレーラや自動車・機械産業等の拡大による需要増により、2004年から2006年度の全需は約8,000台と高レベルで推移していましたが、それが一巡した部分もあり、2007年度の全需は減少するのではないかと見ております。20ft海上コンテナ積載トレーラの増トン改造車の基準緩和期限が2008年3月までとなっており、代替需要が見込まれる部分はありますが、全体としては厳しい環境になると予想しています。

トレーラ部会の主要な課題への取り組み内容についてお聞かせ下さい。

トレーラ部会の主要課題としては、製造側、使用者側の安全対応があります。

最近では、車体工業会ホームページ中の最近の活動に掲載いたしました。2007年4月1日施行した「自動車点検基準」「自動車の点検及び整備に関する手引き」改正に合わせ「大型車」については、点検内容の見直しと追加を行い「被牽引自動車」については、点検項目を規程する別表を事業用自動車等に適用するものから分離し、わかりやすく規定しました。現在、定期点検整備を適正に行っていただき、安全運行が確保されるよう「トレーラ定期点検整備の手引き」の見直しも行っていきます。

また、当会製造メーカーとしてユーザーの方々に安全運行していただくための留意点をまとめたサービスニュースを多数発行をしています。

さらに、2006年には「車輪脱落防止の正しい取り扱いについて」のパンフレット1万枚を作成しユーザー、整備工場への配布し、徹底を図っています。

技術面では、技術委員会を中心に関係法令の適切な対応や適用を検討しています。例を挙げると、点検整備等の作業時における「ホイール・ナットの規定トル



ク値」の検討やトラクタ・トレーラ横転抑止策の検討があります。

今後とも部会員が力を合わせ活動の推進を図っていききたいと思います。

今後の計画や抱負についてお聞かせ下さい。

環境問題からCO₂削減への対応が強く求められておりますが、その対応としてトレーラ化は、効率化や環境面において有効な手段であると考えています。多様な荷物を目的に合ったトレーラで大量に一度に運ぶことは、燃料費や原材料等の高騰へ対応するための輸送効率化や、環境負荷抑制への貢献に繋がることとなり、まさに理にかなっているのではないかと思います。こうした観点からトレーラの利便性をアピールし、更にお客様のご要望をとらえながらより良いトレーラを提供していきたいと思っております。

また設計、製造、開発、安全など会員が共通する事項をトレーラ部会として取り上げ推進し、車体工業会の一翼を担う部会として自動車関係業界に貢献出来れば幸いです。

Profile

- ◆業務歴
 - 1964年 4月 東急車輛製造(株)入社
 - 2001年 6月 取締役
 - 2003年 4月 取締役 特装自動車事業部長
 - 2005年 6月 常務取締役 特装自動車事業部長
 - 2006年 6月 専務取締役 特装自動車事業部長
- ◆車工会歴
 - 2003年 4月 トレーラ部会長就任
 - 5月 理事就任
- ◆趣味・嗜好
 - ゴルフ(下手の横好き)、山歩き
- ◆人物寸評
 - 周囲の人と気さくにコミュニケーションをとられています。その上で、進むべき方針をきちんご説明されます。また、ゴルフの話題になると、より温かな雰囲気になります。